



平成 30 年 8 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社アゴーラ・ホスピタリティー・グループ  
代表者名 代表取締役社長 クォック・ゲイリー・ヤン・クエン  
(コード：9704 東証第1部)  
問合せ先 取締役CFO 佐藤 暢樹  
(TEL. 03-3436-1860)

営業外費用の計上ならびに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は平成30年12月期第2四半期累計期間（平成30年1月1日～平成30年6月30日）において、営業外費用を計上することといたしましたのでお知らせするとともに、最近の業績動向等を踏まえ、平成30年2月9日に公表した平成30年12月期の連結の第2四半期累計期間（平成30年1月1日～平成30年6月30日）業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外費用（為替差損）の計上

為替相場の変動により、平成30年12月期第2四半期連結累計期間（平成30年1月1日～平成30年6月30日）において、90百万円の為替差損を営業外費用に計上することといたしました。

これは、主として当社保有の豪ドル建等の一部外貨建資産に対する為替相場が前期末に対し円高に推移したことにより発生した為替差損であり、今後の為替相場の状況によりこの額は変動いたします。

2. 業績予想の修正について

平成30年12月期第2四半期（累計）連結業績予想数値の修正  
（平成30年1月1日～平成30年6月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想（A）	3,600	70	45	10	0円04銭
今回修正予想（B）	3,350	△60	△200	△280	△1円10銭
増減額（B－A）	△250	△130	△245	△290	
増減率（％）	△6.9	—	—	—	
（ご参考）前期第2四半期実績 （平成29年12月期第2四半期）	3,621	△20	△31	214	0円80銭

### 3. 業績予想の修正の理由

平成 30 年 12 月期第 2 四半期連結累計期間の売上高は、堅調なインバウンド需要を背景に宿泊事業を推し進め、大阪地域における宿泊部門は堅調に推移したものの、レストラン、宴会部門が伸び悩み、前回予想を若干下回る見込みです。利益面においては、営業費用の抑制に努めましたが、売上が当初の想定に至らず、営業利益は前回予想を下回る見込みです。さらに、営業外費用に当社が保有・運用する外貨建ての外国証券に係る評価損を為替差損として計上すること等により、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益についても前回予想を下回る見込みです。

なお、通期の連結業績予想につきましては、主力事業である宿泊事業において、売上確保に向け積極的な営業部門への人材投入に加え、営業費用の削減の取組み等により、下期において収益が回復し、概ね当初の想定通りの通期業績予想の見込みであることから据え置いております。通期業績予想を見直す必要が生じた場合には速やかに開示する予定です。

(注) 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後発生する様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上